２－１　土地利用の方針

No	意　　見
1	まちなかは、住みやすいところなので地域の特性を残して、住み続けられるところにしていったらよいと思う。
2	中心市街地が重要で、住みやすいところにしていった方が良い。 道路が狭いが、通過交通が少なく、静かで安心した環境になる。近くに武生中央公園もあるし、若い人にとっても暮らしやすいと思う。 まちなかを良くするには、イベントや観光だけはなく、根本的に居住を促すなどの日常に対する取り組みが必要。
3	土地利用の方針では、中心市街地の空き家や空き店舗、駐車場などの低未利用地の活用、土地の流動性を図る等の視点を入れることも必要。 武生の中心市街地は、京町通りをはじめとした美しい路地がある。貴重な資源だと思っている。上手くやっていって店が増えれば、県外からの観光客もくる場所にもなりえると思う。
4	大学の課題でホテルの建築と自転車のまちづくりを提案した。宿泊機能が集約しているホテルをまちなかの空き家に機能を分散させ、自転車でまちの日常を感じながら宿泊をするというもの。 自転車がカギとなり、施設等に入ることができる。自転車の車輪には月契約で企業やお店の広告物を設置、走っている自転車や施設においてある自転車の車輪の広告を見てお店に来てもらうという好循環を生む。 顔を合わせられる自転車だからこそできるコミュニケーションがあると思う。
5	商店街を維持していきたい。まちなかの店は、日常品より、非日常を扱っているところが残っている。信頼性があり、信用できる本当の専門店であれば、市外や県外からお客が来る。
6	空き家対策は、空き家になってからの対策ではなく、空き家にならない対策も必要
7	土地利用方針に、地域経済の発展のための視点が必要。神山地区だと、既存の工業団地の拡張や企業誘致といったことが考えられる
8	人口減少を止めるには帰りたいと思う魅力が必要ではないか、働き口の企業を誘致してはどうか
9	農業が観光につながらないか
10	耕作放棄地を活用したい。花畑にすると観光客がくるのではないか、いずれは産業化できると良い。
11	水田が残れば、土地利用も緑地や景観の保全につながるのではないか
12	福祉の面でいえば、フォレスト構想は草むしりや葉っぱ拾いなど障がい者の作業場にもなる。森の中にいるだけで癒しになり、デイサービスの人も来たいと思う。

No	意　　見
13	フォレスト構想の中に公園、店舗（飲食店）、ミュージアム等を点在させたら良いと思う
14	越前市の宝を押し出し、越前たけふ駅周辺で体験してもらい、まちなかに誘導する観光がいいのではないか
15	越前たけふ駅前には若者が集える居場所があると良い（芝生の自由な空間やイベント展示などができるスペースなど）
16	越前たけふ駅周辺の適正な開発の誘導とあるが、「開発」ではなく「土地利用」の方があっているのではないか。2046年の大阪開業という長期的なスパンで、乗降客数や情勢の変化、ニーズなどを把握してやっていく方が良い。焦り開発することが目標にならないようにしないといけない。
17	国道417号線と国道365号線がつながる話には期待がもてる。国道8号や北陸自動車道などもあるので、日本海側や恐竜博物館など、各所へ行くために利便がよいところとして越前市が拠点になると良い。
18	(建築士会員意見)準工業地域と住居専用地域が隣接している区域もあり、準工業地域は、規制が緩いため特別用途地区の指定も検討してはどうか
19	岩手県のオガール柴波や鯖江のRENEWのように1つのコンセプトでまちづくりをしてはどうか
20	観光客が来ると、地域住民もまちの魅力に気づき、良くしようと住民同士の交流も増えると思う

２－２　交通体系整備の方針

No	意　　見
21	都市計画道路の見直しで、公共交通ネットワークとしてどうかの視点もいれてはどうか。公共交通の考えを踏まえることで、都市計画決定された幅員が現状で良いのかどうかを検討する材料になる。例えば、車線が1車しかなくそこで乗降すると渋滞になる。バス専用レーンやバスベイを設けることで交通を円滑にすることができるので幅員を広げることが考えられる。
22	まちなかが渋滞しているのであれば、豊線など東西の道路を整備し、一般車を迂回させ、まちなかの通過交通を減らすことも考えられる。通過交通が減れば、混雑が緩和され公共交通のまちなかの回遊性を高めることも期待できる。
23	地域高規格道路の構想が福井県にある。整備自体はまだ先だと思うが、都市計画道路は、それも見据えておいた方が良い。それを考えずに都計道路を整備すると、やり直しがきかず取り返しがつかなくなる。

No	意　　見
24	交通の点では、歩行者専用道路、自転車専用道路のネットワークを考えてはどうか。歩行者専用道路は、紫式部公園から中央公園に向けた路線と、国高南部地区で整備した路線があり、日野川にはサイクリングロードがあると思う。
25	スマホでレンタルできる電動自転車等を活用したらどうか、越前たけふ駅から岩内山、御誕生寺、日野川などをめぐるサイクリングロードの整備と駐輪場の配置はどうか。
26	白山地区、坂口地区などを維持するためには、その地区から旧八号や広域農道などと交わるところに公共交通のハブ機能を設け、乗り換えることで幹線道路沿いの商業施設やまちなかの病院など各施設にいけると良いのではないか
27	越前市は、国道8号、広域農道(国道365号)、旧8号、戸谷片屋線により、周回することが出来る。そのところどころに公共交通のハブ機能を持たせることで、白山地区や坂口地区など各地区のオンデマンド交通等がハブ拠点で幹線道路やまちなかを周遊する公共交通に乗り換えることで、各施設を利用することができ、地区の維持につながるのではないか。
28	デマンド交通やドローン等、車を使わない方針も必要
29	人口減少や免許返納という背景と併せて将来像を考える
30	交通は周囲の市町を比較するのではなく連携して行うべき、その中でも越前市はリーダーシップをとるべきでは
31	20年後は自動運転や空飛ぶ車があるため、道路やトンネルはいらなくなると思う
32	高齢者が暮らしやすい環境の整備シニアカーの走りやすい道を整備すると良い
33	拠点間のネットワーク（交通、通信等）を強化することで遠い距離であっても精神的に近くなる

２－３　公園・緑地の方針

No	意　　見
34	公園緑地についても、避難所になりうるため、防災の視点をいれてはどうか
35	観光客に来てもらうためには管理（山なら草木枝等）が必要

２－５　景観形成の方針

No	意　　見
36	普段の生活の中でも豊かな景観が必要。北陸新幹線越前たけふ駅周辺は、景観にこだわった地区にできると良い。
37	景観をつくるのに安さ重視ではだめ、お金をかけるところにはかける

No	意　　見
38	外観を残して、家中をリフォームして暮らしやすくすることで、これまでの街並みがのこる。しかし、世代が変わると街並みに対する思いが変わる。（庭をつぶして、駐車場、蔵を改装して店舗など）
39	紙すきの匠、伝統工芸士が全国的に見て約半数住んでいる。そういう人が住んでいるまちをアピールしていくためには、その人達のことを伝えていくとともに、古い建物を保存しないといけない。今立らしい建物がなるべく残ってほしい。また、空き家を開放、活用してもらえるような政策があるとよい。重伝建地区のことを書けると良い。
40	伝統工芸にとって街並みの雰囲気は大切。街並みを守る制度や支援が必要。
41	拠点や地域を都市計画でつなぎ歴史や文化が見えるまちをどう取り戻せるか？通り名やまちなかの文化財には説明のプレートを、シンボル的なカラーで通りを統一すると良い。

２－６　安全で安心なまちづくりの方針

No	意　　見
42	まちなかの空地を公開空地、オープンスペースとして利用すれば、防災の観点から延焼を防ぐスペースになる。オープンスペースは緑地にもつながる。越前市の木造でできている伝統的なまちなみが商業地域だと防火地域が指定されており、木造では建築できない。オープンスペースの延焼防止機能があれば、防火地域にかわって防火機能が備わり、建築が可能になることも考えられる。
43	防火、準防火地域は、建替えのハードルになっているが、一方で命を守る制度でもある。旧武生地区の一部の指定を外す場合、旧今立地区の一部を新たに指定する場合、どちらにしろ考え方、理由を明確にする必要がある。 他市と比べて広いから指定を外すや武生と今立で指定の整合が取れていないからと指定するという考えは違うと思う。
44	道路についても、避難や輸送経路になりえるため、こちらも防災の視点が必要ではないか
45	越前たけふ駅周辺は、地下に防災機能として、水を貯めるだけでなく、テントをたてたり非常食や災害時の備品を置いておく空間をつくってはどうか
46	防災の視点で、デジタルマップや3Dマップの活用をしてはどうか

２－７　環境負荷軽減の方針

No	意　　見
47	環境負荷軽減の点では、木質バイオマスの活用が進んでいない。今立は、和紙や繊維などボイラーを使う業種が多い。木質バイオマスに変えることで、負荷を軽減できる。発電も行うことが出来る。伐採時期を過ぎ60年を超えると花粉の量が多くなる。木質バイオマスの活用では、山の更新にもつながり、花粉を減らすこともできる。
48	市内の企業と連携して、電気自動車などの電気の分野に踏み出したり、農業用水路と小水力発電を組み合わせることで、地元の電力を賄えるとおもしろい
49	交通ネットワークに環境負荷を下げられる考えがあると良い
50	越前市で盛んな有機栽培は、環境負荷低減につながる。「化学肥料、化学合成農薬を削減」し、これまで焼却処分されていた農業廃棄物（籾殻や野菜残差）を「堆肥」として「有機農業」で利用すれば、土壌改良だけでなく、温室効果ガスである二酸化炭素の排出を大きく削減できる。
51	環境に合わせた商品開発を行う（三重県では宝石から出る貝でブロックをつくっている）
52	2023年になれば新しい太陽光パネル（ペロブスカイト太陽光）ができ、安く簡単にできるようになる、今は高くてできない